

愛媛・大分交流 市町村コラボ企画

# 豊平交流

愛媛・大分両県の自治体同士でお互いの地域の魅力を紹介し合う取り組みを行っています。豊予海峡を挟んだ海の向こうに目を向けてみましょう！（次号は愛南町です）

## 鬼北町の概要

鬼北町は、愛媛県西南地域の内陸部に位置する、人口約9,800人の自然豊かなまちです。平成17年に広見町と日吉村の合併により「鬼北町」が誕生しました。全国の自治体名で唯一「鬼」の字が入ることから「鬼のまちづくり」に取り組んでいます。今回は、観光施設である武左衛門一揆記念館と国登録有形文化財の鬼北町庁舎を紹介します。



ゆるキャラ「きほくん」

## 武左衛門一揆記念館



武左衛門一揆とは、寛政5年（1793年）に伊予吉田藩で起こった全国的にも有名な百姓一揆「吉田騒動」のことです。日吉地区（上大野村）出身の武左衛門がこの一揆の中心人物であったことから武左衛門一揆と呼ばれています。

一揆は、領内83カ村の村々から約9,600人の農民が決起し、願い出た要求の全てが認められるという、歴史上稀にみる農民側の完全勝利で幕を閉じました。しかし、この一揆の指導者・武左衛門は、3年後に捕縛され、処刑されます。自らの命を犠牲にして多くの農民を救ったこの武左衛門の「義民の精神」は、地域の人々に受け継がれ、まちおこしの原動力となっています。

武左衛門一揆記念館では、一揆を再現した映像などを通して、当時の生活や一揆の顛末を学ぶことができます。

## 鬼北町庁舎

日本におけるモダニズム建築（近代主義建築）のパイオニアとして知られるチェコ出身の建築家アントニン・レーモンド。鬼北町庁舎は、レーモンドが率いたレーモンド建築設計事務所（当時）が設計し、昭和33年に旧広見町庁舎として建設されました。明快なゾーニングによる平面計画とそれに対応した構造計画、当時の最新技術であるHPシェル構造の屋根を採用するなど、モダンなデザインが特徴です。シェル構造の導入は、国内で二例目であり、最初期の事例として高く評価されています。平成24年には、国登録有形文化財に指定されました。平成27年から耐震化を含む大規模改修が行われ、その改修内容は、BELCA賞や公共建築賞を受賞するなど、各方面から高く評価されています。



お問い合わせ 鬼北町企画振興課 地域活力創出係 ☎0895-45-1111

※上記の記事は鬼北町が作成しました。内容の詳細については鬼北町企画振興課までお問い合わせください。

## 市民図書館からのお知らせ

### 市民図書館で活動するボランティア募集

内容：書架の整理、資料の簡易修理、地域資料の保存作業、読み聞かせ（3年以上経験のある人）、図書館行事の協力など  
対象：市内居住の16歳以上の人（18歳未満の人は保護者の承諾が必要）  
説明日時：2月16日(水)・18日(金)・19日(土) 午前10時～  
※3回とも同じ内容です。必ず1回参加してください。（事前申込不要）  
説明場所：J:COM ホルトホール大分 2階201・202会議室

### 大人のための朗読会

物語を楽しむ大人の朗読会、今回は春がテーマのお話です。  
日時：2月10日(木) 午後2時～3時  
場所：市民図書館 2階会議室  
定員：20人(要事前申込み)  
申込み：直接または電話で、1月15日(土)から市民図書館へ。

無料

市民図書館 ☎576-8241

このコーナーでは、市民図書館が所蔵している新刊を紹介します。



### そらをとびたい

山本直洋：写真 ちかぞう：文 小学館

大きなプロペラ付きエンジンを背負いパラグライダーを翼として飛行するモーターパラグライダー。作者は空高く鳥のように舞い上がり雄大で美しい写真を撮影します。それはまさに奇跡の一枚。読んでいる私たちを地球の不思議な世界へ誘ってくれます。

### 名著のツボ 賢人たちが推す！ 最強ブックガイド

石井千湖：著 文藝春秋

誰でも知っている古今東西の優れた文学書や、人文書、神話の読みどころ「名著のツボ」が分かりやすく書かれています。タイトルは知っていても難しそうだと、これまで遠ざけていた本の魅力に気付けるブックリストです。



## 人権・同和教育シリーズ 517

### 人の生き方を考える



### 本当なのか？

わたしは最近、ようやくスマートフォンに替えました。高校生の孫が、丁寧に使い方を教えてくれて、いままながら便利な道具だと実感しています。特に、インターネットは、自分が知りたい情報を瞬時に手に入れられるので、よく利用しています。今では使い方にも慣れ、時間があればいろいろなことを調べ、その情報を誰かに話すことが日課になりました。

ある日、孫が進学を希望している大学の公式サイトを見ると、研究施設が充実していることが分かりました。「進学を考えている大学、良さそうだね」と孫に言うとおじいちゃん、詳しいね」と笑顔で答えてくれました。その後、孫のためと思い、さらに調べていると、ある投稿を見つけました。そこには、その大学の学生と名乗る人や匿名で、大学の良くない評判が書き込まれていました。わたしは一気に不安な気持ちになり、すぐ孫に進学先を考え直すよう話しました。「どうしたの急に？」と

言う孫に、良くない評判を見たことを伝えると「その情報、間違っているよ」と言うのです。わたしが戸惑っていると孫は「わたしもその投稿見たの。でも、この前体験入学に行ったとき、大学の職員が、インターネット上で学生を装った掲示板への悪質な書き込みがあることを教えてくれたんだ」と言い「実際に、たくさんの方を自分で見たり聞いたりして、投稿は事実と全く違っていることが分かったの」と続けました。孫の話聞いて、わたしは投稿が間違っていた情報であることを知り、もしこの情報を他の人に話していたら、偏見を広めてしまう可能性があったと気付きました。

孫は「インターネットは便利で助かるんだけど、体験入学していなかったら、調べて考えると怖いと思う。実はわたしもネットの投稿をうのみにしていたから、これから一緒に上手な使い方を考えていこうね。いろいろ調べたの、ありがとうございます」と話しました。どのようか情報に向き合っていました。

事実とは違う情報が拡散してしまうと偏見を生み、差別を助長することにつながる可能性があります。「本当なのか？」と一度立ち止まる姿勢が大切です。